

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
106-231	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	現国・104-904	改訂版 新編 現代の国語		

1. 編修の基本方針

- 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。
- 言葉の働きについて理解を深めるとともに、言葉を通して社会と関わる態度を養う。
- 論理的に考え、適切に伝え合うための、確かな思考力・判断力・表現力を培う。
- 現代社会の諸問題に対する幅広い関心と、言語文化の担い手としての自覚を育む。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
言葉を学ぶ		
他者と関わる	他者との関わりの中で自身を成長させるあり方について述べた評論により、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことを意図した。(第1号)	p. 15～p. 32
対比を読み取る	対比構造について学習できる二つの文章を通して、言語運用能力を高めるための知識を身につけられるようにした。(第1号) 自国と他国の文化比較を通して、自国の文化の特徴について理解を深め、国際社会の平和と発展のために必要なことについて考察できるようにした。(第5号) 人と自然の共生における重要な問題点について、自身の生活と具体的に関連づけて考察できるようにした。(第4号)	p. 33～p. 50
社会の中で生きる	自分の生き方や職業について考えることで勤労を重んじる態度を養うとともに、世界平和と自分の生活との関わりについて考察できるようにした。(第2号・第5号)	p. 51～p. 72
言葉の働きをとらえる	コミュニケーションについて異なる視点から述べられた二つの文章の読解を通して、幅広い知識を身につけるとともに、自己と社会との関わり方について考察できるようにした。(第1号・第3号) 人間の思考や認識を支えるという言葉の働きについて理解し、言葉を用いて主体的に思考する力を培うことができるようにした。(第1号)	p. 73～p. 96

考えを表現する	批評する活動を通して豊かな情操や創造性を培うとともに、さまざまジャンルの表現や構成の手法を学びながら文章を書く活動を通して、幅広い知識と教養を身につけられるようにした。(第1号・第2号)	p. 97～p. 142
情報と向き合う	多角的に物事をとらえたり、身近な物事にも疑問を持ったりすることを通して、幅広い知識と教養を身につけ、柔軟な発想で真理を求める態度の重要性を認識できるようにした。(第1号)	p. 143～p. 164
筆者の主張を読み取る	現代社会の問題点を理解し、そこで求められる責任や他者を敬い協力することの重要性と個人の創造性について考え、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした。(第2号・第3号)	p. 165～p. 194
社会の中の文章	実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。(第3号)	p. 195～p. 210
言葉を使う		
話し言葉の技術	自身の思いを他者にわかるように伝えたり、他者と共感し合ったりすることの大切さを、活動を通じて理解できるようにした。(第3号) グループ活動によって個々の責任をはたす大切さを学ぶことで、主体性と他者を尊重する態度を身につけ、社会の形成に参画し、その発展に寄与できる力を養えるようにした。(第3号)	p. 212～p. 225
書き言葉の技術	調査結果および自身の考えをまとめる活動を通して、知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養えるようにした。(第1号) 自身の考えを深めたり、適切に表現したりするための基本的な方法を身につけ、さまざまな事柄に対して主体的に取り組む態度を培うことができるようにした。(第2号)	p. 226～p. 238
資料編・見返し		
テーマ別キーワード	実社会の生活に即した言葉のつながりや使い方を 知ること、言語を用いて自己の思考を深め、他者や自己を取り巻く文化・社会への理解と敬愛の精神を育めるようにした。(第1号・第3号)	p. 240～p. 259
情報探索と利用の方法	各題材に関連した資料などを通して、より学習の理解を深め、幅広い知識と教養を養えるようにした。また、実社会でも必要とされる情報探索の方法を知ること、主体的に学ぶ姿勢を身につけ、個人の能力を高められるようにした。(第1号・第2号)	p. 260～p. 262
インターネットへの情報発信の注意点	実社会における情報発信の注意点を知ること、主体的に学ぶ姿勢を身につけ、個人の能力を高められるようにした。(第1号・第2号)	p. 263

見返し	実社会につながる書籍などについて知ること、社会生活に必要な知識や教養を身につけ、個人の能力を高められるようにした。(第1号・第2号)	前見返し 後見返し
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		
<ul style="list-style-type: none"> ● 学校教育法第51条2号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、教材の読解にとどまらず、語彙力を高めたり、基本的な言語技術を確認したり、読書活動につなげたりできるようなコラム(「評論チェックポイント」「ズームアップ」「活動」「解説」)を随所に掲載した。 ● 学校教育法第51条第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末には、現代社会のさまざまな話題や問題を多角的な視点から考察できる設問や言語活動例を多数用意した。 		

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
106-231	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
104・数研	現国・104-904	改訂版 新編 現代の国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1)全体

- ① 「言葉を学ぶ」「言葉を使う」「資料編」の3編で構成した。「言葉を学ぶ」「言葉を使う」編においては、さまざまなテーマの論理的文章・実用的文章を掲載した。
- ② 「評論チェックポイント」コーナーを設けて、評論文を読解する際に身につけておきたい知識・技能を解説した。
- ③ 思考や表現をささえる語彙力を身につけられるよう、語句の特徴や使い方について解説した「ズームアップ」コーナーを設けた。
- ④ 「話すこと・聞くこと」についての基本的な事項を確認できる「活動」コーナーを設けた。

活動
わかりやすく話す

▼話す内容の構成を考える。
▼話し方の注意点を確認する。

《学び始める春》では、失敗をしても「自分を肯定し、試行錯誤を楽しむこと」について述べられていた。ここでは、自分が好きなこと・続けていることについて、クラスで紹介してみよう。

ズームアップ
対義語

対義語とはある基準をもとにして、意味が反対の関係や対の関係にある二つの語を「対義語」という。例えば、「上」と「下」はある地点から動く方向において反対の関係を表す対義語である。

●対義語の使い方
対義語は、その意味によって組み合わせが複数になることもある。例えば「甘い」について考えると、「甘い」



指示語の例

こ	これ・この・こう・こんな
そ	それ・その・そう・そんな
あ	あれ・あの・ああ・あんな
ど	どれ・どの・どう・どんな

指示語とは、目の前のものを直接に指したり、話題の中の何かを指したりするために用いられる言葉のことである。主として左の表のようなものがあり、「こ」と呼ばれる。

雨が降りそうだから、これを履いていこう。

1 指示語とは

指示語とは、目の前のものを直接に指したり、話題の中の何かを指したりするために用いられる言葉のことである。主として左の表のようなものがあり、「こ」と呼ばれる。

語句と文で理解しよう

2 指示語の内容

評論読解の第一歩となるのが、指示内容を正確につかむことだ。指示内容が多岐にわたる場合もある。

例1
指示内容が指示語の前にある場合
自分を守ってくれる人たちが、ある集団と良好な関係を築くことに関わった。そこから追い出されることになる。

例2
指示内容が指示語の後にある場合
ゲームとは、こう言っつてよけむ遊びだ。

トレーニング
自分の好きな本や雑誌の目録を再読してみよう。

- ⑤ 本編教材とあわせて学ぶことで理解が深まる教材を掲載した「探究の扉」コーナーを設けることで、資料を比較したり関連づけたりする力を養えるようにした。

探究の扉
／比べ読み／

私の仕事

先日沖縄の美術館に沖縄戦の取材に向った。ある大きな絵の前に私は言葉を失う。怒り、絶望、悲しみ、キャンバスいっぱいに描かれた人々の顔から目を逸らす。

白旗をあげ、防壁から出ていく青年を、日本兵が後ろから撃っている。亡くなった赤子を抱いている母がいる。お互いに首筋にカミソリを当て合っている若

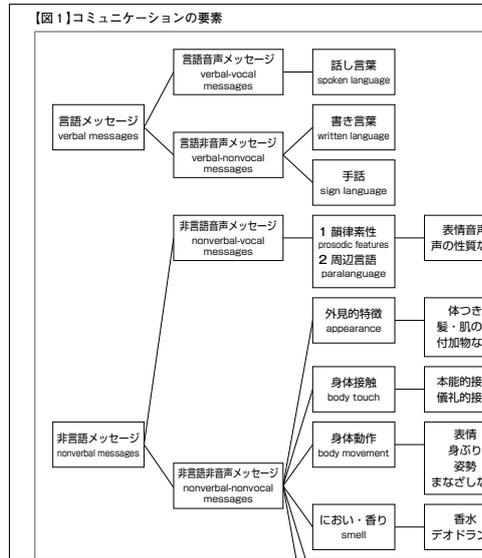
次の文
和との
とあわ
実現に

この光景は、あきの絶句「アーンです」

- ⑥ 各教材の見出し付近に掲載した二次元コードを通じて、さまざまな角度から本編教材の理解を深めることができる「学習用コンテンツ」を多数用意した。

(2) 言葉を学ぶ

- ・現代の社会生活に関するテーマについて述べた文章、図表や資料を用いた文章など、さまざまな形式の文章に触れられるよう配慮した。
- ・単元内の題材の学習内容に関連性をもたせ、多彩な言語活動を通して、自分の考えを論理的に表現する力、目的に応じて書く力を身につけられるようにした。



言語活動

1 次の図は、自分が見たいものだけを見、自分が知りたいことだけを知ろうとする限り、私たちの視野はどんどん狭くなっていきます「(四・8)」という筆者の指摘の具体例を表したものである。後の(1)・(2)にそれぞれ取り組んでみよう。

1 **ことばと表現**

1 次の傍線部を漢字に直してみよう。

(1) フツウは六時に起きる。
 (2) キンチョウを和らげる。
 (3) 知人をクヨクで涙する。
 (4) 事件にカンヨした疑いがある。
 (5) 過去の失敗をクヤむ。

2 次の(1)・(2)を用いて、短文を作ってみよう。

(1) いわゆる「壁・2」
 (2) 「...を」左右する「壁・14」

(1) 図中の生徒のSNSとの関わり方には、どのような問題点があるか。箇条書きにしてみよう。

(2) 図中の生徒に対するアドバイスを考えて、発表してみよう。

(3) 言葉を使う

- ・汎用的な言語能力を身につけるための基本知識を解説し、適宜「言葉を学ぶ」の内容と関連をもたせ、相互に効果的な学習ができるようにした。

適切に話す・聞く **スピーチ**

▼聞き手にわかりやすく話す。
 ▼自分の主張を聞き手に明確に伝える。
 ▼注意深く正確に聞く。

1 **スピーチの方法**

次の手順でスピーチの流れを確認してみよう。

- 1 話すことのメモを作る
- 2 スピーチ原稿を作る
- 3 原稿を音に出して読んでみる
- 4 話すことのメモを作る

① テーマが与えられている場合は、テーマから思いつくことを書き出してメモを作ろう。テーマが与えられていない場合は、自分の趣味や経験など、自分が話しやすいと感じることをテーマにしよう。

(4) 資料編

- ・実社会の生活に即した言葉の意味や使い方、情報の扱い方を知ること、言語を用いて自己の思考を深め、他者と言葉で関わり合う力を身につけられるようにした。

論理的に
思考し表現する
ための言葉

アイロニー 遠回しに意地悪く、本心とは逆の言い回しをすること。
 ▼彼の発言は多分にアイロニーを含んでいる。
器皮肉/反語

依拠「いきよ」 より所とすること。また、そのより所。
 ▼昔の文脈に依拠して遺跡の発掘を進める。

異端「いたん」 その世界や時代で正統とされている考えから外れている、または正反對のこと。
 ▼彼は文壇の異端児とみなされている。
対正統 ① 正しい系統・血筋、オーソドックス。② 最も標準的な立場。③ 当初からの字源などを忠実に継承しているさま。

2. 対照表

図書構成・内容		学習指導要領の内容								該当箇所 [頁]	配当時数				
単元	教材	知識及び技能			思考力, 判断力, 表現力等						話す・ 聞く	書く	読む		
		(1)	(2)	(3)	A 話すこと・聞くこと (1) (2)		B 書くこと (1) (2)		C 読むこと (1) (2)						
他者と関わる	学び始める春	ウ・エ								ア		16			1
	【活動】わかりやすく話す	イ				ア						22	1		
	【ズームアップ】熟語	エ										23			
	風が通るとき	ウ・エ								ア	ア	24			1
	【評論チェックポイント1】指示語	カ										31			
対比を読み取る	【評論チェックポイント2】接続語	オ	ア									32			
	水の東西	ウ・エ							ア			34			1
	里山物語	ウ・エ							ア	ア		40			1
	【活動】メモをとりながら聞く	イ				エ						47	1		
	【評論チェックポイント3】対比	オ										48			
社会の中で生きる	【ズームアップ】対義語	エ										50			
	目指す世界の地図を作る	ウ・エ	イ						ア	ア		52			1
	【言語活動の実践】テーマを決めて話し合おう	イ	ウ			エ・オ	ウ					58	1		
	一歩でも動く	ウ・エ							ア・イ	ア		60			1
	【探究の扉】私の仕事	カ				ア	ウ					68	1		
言葉の働きをとらえる	【評論チェックポイント4】具体例	カ										71			
	【ズームアップ】類義語	エ										72			
	世間話はなぜするか	ウ・エ							ア・イ	ア		74			1
	【探究の扉】非言語コミュニケーション	カ	イ			ア・イ・ウ	ウ					82	2		
	【活動】相手との関係を踏まえて話す	イ				ウ						86	1		
考えを表現する	コインは円形か	ア・ウ・エ							ア・イ	ア		87			1
	【評論チェックポイント5】キーワード	ア・オ										95			
	【ズームアップ】同音異義語・同訓異字	エ										96			
	立場や考えを明確にして話し合おう(第一夜)	ア・オ	ア			イ						98	2		
	『羅生門』の最後の一文	ウ・エ							イ・エ			104		1	
情報と向き合う	【言語活動の実践】批評文を書こう	イ・オ							ア・イ			120		2	
	ポスター・パンフレット・新聞記事	エ	エ									124			
	広告コピーを書く	イ・エ							イ・ウ	イ		126			5
	新聞記事の構成・表現の工夫をとらえる	オ							イ	イ		139			4
	【ズームアップ】慣用句	エ										142			
筆者の主張を読み取る	SNSに偶然はあるのか	ウ・エ							ア・イ	イ		144			1
	「差」という情報	ウ・エ	ア						ア	ア		152			1
	グラフ		ウ・エ									160			
	【活動】資料をもとに話し合う		ウ・エ			オ	エ					162	1		
	【評論チェックポイント6】問題提起	ア・オ										164			
社会の中の文章	【異文化を理解する】とは	ウ・エ							ア	ア		166			2
	会話という営み	ウ・オ							ア	ア		172			2
	【評論チェックポイント7】筆者の主張	ア・オ										181			
	「わらしべ長者」の経済学	ウ・エ							ア	ア		182			2
	【活動】目的に応じて情報を聞き取る	イ				エ						193	1		
話し言葉の技術	【ズームアップ】ことわざ・故事成語	エ										194			
	根拠の妥当性を説明する		ア						イ・ウ			196			4
	適切な書式で通知する	エ・オ							イ・ウ	イ		199			3
	必要な情報を整理して書く	オ							ア・イ・ウ	イ		202			3
	文章の構成を工夫して提案する		ア						イ・エ	ウ		206			6
書き言葉の技術	【適切に話す・聞く】スピーチ	イ				ア・イ・エ	ア					212	2		
	【話し合いの方法】ディベート・討議		エ・オ			イ・エ・オ	ウ					214	4		
	【発表の方法】プレゼンテーション		エ・オ			ウ・エ・オ	イ					221	4		
資料編	【文章トレーニング1】文章構造を理解する	オ										226			
	【文章トレーニング2】要約する	オ	ア									228			
	【文章トレーニング3】比較する		ウ									232			
	【文章トレーニング4】意見文を書く	オ	オ						エ	ア		234			5
前見返し 後見返し	テーマ別キーワード	ア・エ										240			
	情報探索と利用の方法		エ									261			
	インターネットへの情報発信の注意点		エ									263			
配当時数合計	ブックガイド			ア								①②			
	原稿用紙の使い方	イ										④⑤⑥			
		A 話すこと・聞くこと									21				
		B 書くこと										33			
		C 読むこと											16		
		合計												70	